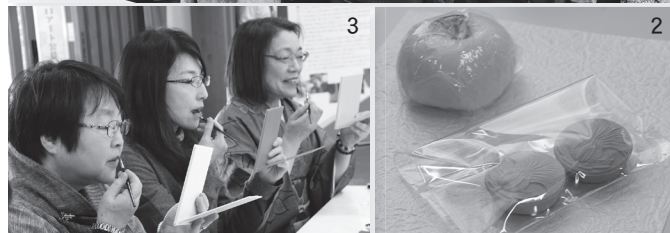


白鷹で生まれた本物の紅（あか）に触れる 本紅講座を開催

「日本の紅（あか）をつくる町」連携推進本部が主催する「本紅講座」が3月5日、町文化交流センターあゆ一むで開催されました。

これは、生産量日本一を誇る紅花を原料につくられた本紅に触れ、紅花及び「日本の紅（あか）をつくる町」について広く知っていただくことを目的としたもので、この日は19人が参加。日本で唯一の紅商社である㈱伊勢半本店本紅事業部（澤田一郎代表取締役会長）から講師を招き、紅についての講演を聞いた後、紅点（さ）し体験・本紅を使用したお守りづくり体験を行いました。実際に紅を点（さ）した参加者は「高級感があって上品。一つ買ってみようかな」と笑顔に。このほか、町内の菓子舗が紅を使用して製作した特製の和菓子を試食しました。



1_ 紅の歴史や紅花についての説明を受ける参加者 2_ 町産の紅花を使用して製作された和菓子 3_ 実際に本紅を点（さ）し、普段使っている口紅との違いを感じた

白鷹「冬の農業体験ツアー」 農家の暮らしと暖かさに触れる

冬の農業体験ツアーが3月4日、5日の2日間の日程で行われ、首都圏などから11人が参加しました。

初日は、紺野農園（紺野伊久雄社長）のハウス内で野菜の栽培方法を学んだほか、ほうれん草の収穫や鶏の解体作業などを体験。夜には餅つきを体験しながら、農業の話や白鷹町の話などで交流しました。

また2日目は、どりのいむ農園直売所を見学、商品の搬入体験を行った後、会場を中山地区に移して除雪を体験。昼食には、山形のソウルフード「ひきずりうどん」を食べながら、町内で農家を営む移住者の体験談に耳を傾けました。2日間を通し、参加者は白鷹町の『人の魅力』と『食の魅力』を感じていきました。



紺野社長（右）にていねいに教わりながら、ほうれん草の収穫を体験した参加者

白鷹町少年少女合唱団 第6回定期演奏会 いつまでも響き続けるハーモニー

町少年少女合唱団が主催する定期演奏会が3月4日、町文化交流センターあゆ一むで開かれました。

平成28年度も町内外のさまざまなイベントなどに出演してきた団員25人。「皆さんに聴いてもらうためにがんばってきた」と一年間の集大成を披露しました。この日は、白鷹女声コーラスさくらとメゾソプラノの佐藤涼香さん（高玉出身）を特別出演者に迎え、団員たちは衣装を着替えながら歌のコラボレーションをするなどの演出を見せ、約2時間たっぷりと来場者を楽しませました。



客席からのアンコールに応え、出演者全員による「語り合おう」の合唱で締めくくった